

別府里浜づくり新聞

第53号
平成24年
3月9日

○連絡通路(階段、スロープ)の形状提案

緑地から護岸へ繋がる連絡通路(階段、スロープ)の提案について、図面と模型により説明して頂きました。階段とスロープを直接緑地から水叩きに接続するような配置とし、南北に長い(約420m)単調な遊歩道のアクセントとしたいこと、スロープは緑地から護岸へ渡る橋をイメージしていること等の説明がありました。

また、スロープは5%の縦断勾配を確保し、手摺りも設置することで、バリアフリーに対して配慮している旨の説明もありました。連絡通路の形状については、審議により了承されましたが、手摺りの低い位置にもう1本追加して欲しいとの要望がありました。

○南北端部パラペット形状と水叩きのスロープ勾配に関する対応

南北端部パラペット形状と水叩き・スロープ勾配に関して、雨水排水やバリアフリーに配慮した検討結果の説明がありました。

しかし、護岸構造物の安定性に関する制約があることから本来望ましいスロープ勾配である5%の確保は難しいため、最低でも8%確保するという方針に対して了承頂きました。

○南側端部壁面処理の具体案の提示

南側端部壁面の処理方法の具体案を提示して頂きました。

別府石を使った壁面処理については、四方にコンクリート枠を作ること、小さめの石を使ってなるべく凹凸をなくすことで、上品に仕上がるとの説明がありました。

これに関しては、設計段階で検討した細かい指示を、施工側にスムーズに伝達し、より良い仕上げとすることが重要であるとの指摘がありました。



連絡通路のイメージ



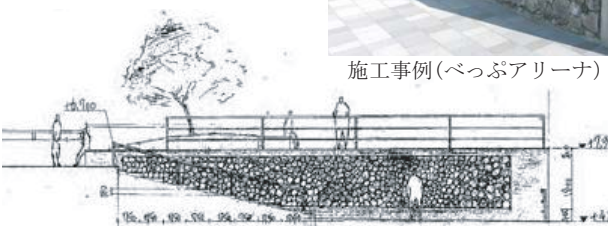
連絡通路(階段)の模型



連絡通路(スロープ)の模型



施工事例(べっぴアリーナ)



南側端部壁面処理イメージ

委員からの主なご意見

委員からの主な質問とご意見、それに対する事務局や他の委員の意見(→部分)は以下の通りです。

○バリアフリーに関して

- ・園路や歩道のスロープ勾配は5%以下が望ましいので極力配慮して欲しい。やむを得ない場合でも最低8%確保する方向で検討して欲しい。
- 南北展望台のスロープは構造上8%となるが、それ以外では極力緩い勾配を確保できるようにしたい。
- ・手摺りは低い位置に1段追加して子供が掴まれるように配慮して欲しい。
- ・手摺りはユニバーサルデザイン波型手摺りがいいのではないか。
- 事務局としては出来るだけ配慮したい。

○植栽に関して

- ・緑地に配置している桜の時期は?
- 提案しているオオシマザクラは4月に緑がかった白っぽい上品な花が咲く。
- ・四季折々の花が楽しめるような植栽にして欲しい。
- 樹種や配置は今後、地元の意見を聞きながら決めていく必要がある。
- ・飛沫防止帯はあまり密にならないように配慮して欲しい。
- ・景観に配慮すると全て低木でもいいと思っていたが、夏場のことを考えると木陰が必要なため、高木も必要である。
- ・飛沫防止帯に提案されている樹種は、単体で風に対して強いものか?
- 別府湾は比較的植生環境がよいと思われる。
- ・近隣の実績から環境適合性に対する確認が必要。
- 餅ヶ浜の植生調査ではクロマツが1年で1m伸びた。管理で剪定を行えば伸びないような方法もある。管理方法は今後の検討課題である。

○使用材料に関して

- ・貯留帯の石は別府石になるのか?
- 別府石が大量に確保できないため、餅ヶ浜で使用したような被覆石を想定している。1個の重さ100~300kg、厚さ50cm程度のものを考えている。
- ・別府石の使用範囲は?
- 今のところ南側端部壁面のみ。詳細検討において土留めや段差等の小構造物の壁面に採用することも考えていきたい。

○管理体制について

- ・整備後の維持管理については、行政主体ではなく、地元が参加しやすくする必要がある。設計段階で枠組みを構築しておくことが望ましい。
- 完成前に管理体制を整えておくことが理想であるが、そのためには官民の連携が今まで以上に重要となる。

○その他

- ・大分県の整備する緑地については、園路の高さ・形状、植栽等がまだ決まっていない。これまでの意見を基に詳細設計を行っていくので、今後ご協力をお願いしたい。
- ・長い間検討して、ものすごくいいものになっていると思う。今後、詳細検討に移った段階で図面を作成し、デザインの概念を施工に生かすことが重要である。最後の仕上げが非常に重要なので、そこは是非しっかりやって欲しい。

お知らせ

北浜地区2の整備計画説明会(第2回)は、平成23年度を予定しています。詳細については、下記のホームページにてご案内致します。これからもご協力をお願い申し上げます。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記の別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧下さい。
<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/beppu/>

平成22年度 第2回別府港海岸(北浜地区2)景観検討会を開催しました。



第2回別府港海岸(北浜地区2)景観検討会(委員長：齋藤潮東京工業大学教授)を平成23年3月17日(木)午後1時30分から午後3時30分まで、大分国際交流会館交流ホールで開催しました。

今回の検討会では、事務局と齋藤研究室より、第1回景観検討会及び整備計画説明会における課題に対して、再検討した結果を、模型とスライドを使って説明しました。

委員の方々にはデザイン性の他、機能面、利用面、維持管理面等の幅広い観点から貴重なご意見を頂きました。

第2回検討会の概要

北浜地区2において平成22年度2回目となる今回の検討会では、まず事務局より、1月29日に開催した市民向けの整備計画説明会の報告と、前回(12月14日)の検討会における課題(主要意見)に対する対応案について、説明を行いました。

次に、再検討した護岸構造・材料に関する提案を事務局側から行いました。

また、東京工業大学齋藤研究室で製作・展示して頂いた模型と資料に関して、齋藤委員長よりデザインの概念や検討課題への対応について分かりやすく説明して頂きました。

＜第2回別府港海岸(北浜地区2)景観検討会＞ 会次第

1. 開会
2. 委員紹介
3. 議事
- (1)第1回別府港海岸(北浜地区2)整備計画説明会の報告
- (2)第1回別府港海岸(北浜地区2)景観検討会における課題と対応
- (3)模型による北浜緑地デザインに関する説明
- (4)護岸構造・材料に関する調整事項の抽出と提案
4. 連絡事項等
5. 主催者挨拶
6. 閉会

今回の議論では主に、①飛沫防止帯における植栽の配置及び樹種、②南北展望部のパラペット形状とスロープ勾配、③緑地から護岸への連絡通路(階段、スロープ)の形状、④南側端部壁面処理方法の具体案の4点について、審議して頂きました。その結果、連絡通路の形状と南側壁面処理については概ね合意が得られました。

飛沫防止帯の樹種については、近隣の実績(環境適合性)や耐風性について追加検討するように依頼がありました。また、スロープの勾配に関しては5%以下が望ましいので極力配慮し最低でも8%確保する方向で今後も検討を進めていくことになりました。

次に、整備計画説明会で強い要望のありました北側緑地内の園路の付け替えについては、第2回整備計画説明会までに具体案を示すこととしました。

更に、護岸背後の緑地整備を担当する県の委員からは、今後も引き続き齋藤研究室のアドバイスを頂きながら、市民の意見を反映した整備に取り組んでいきたい旨の意見がありました。

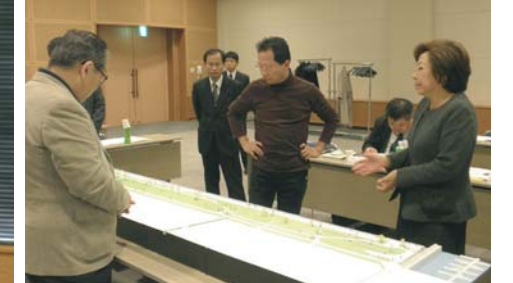
最後に、主催者側を代表して、これまでの検討会にご尽力頂いた委員の方々に別府港湾・空港整備事務所長より御礼を申し上げ、閉会となりました。



齋藤委員長の説明



主催者挨拶の様子



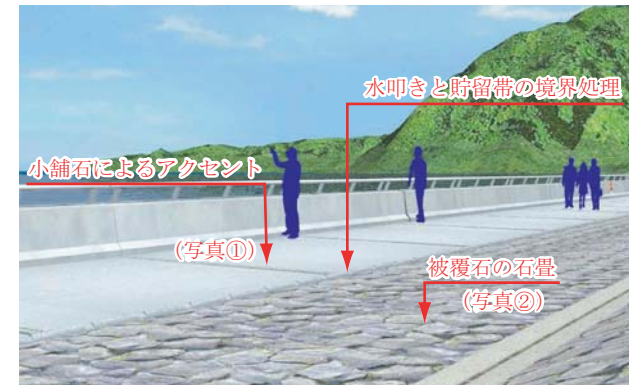
齋藤研究室によるデザイン提案の様子

護岸構造・材料に関する事務局案の説明

○護岸パラペット・水叩き・貯留帯のデザイン提案

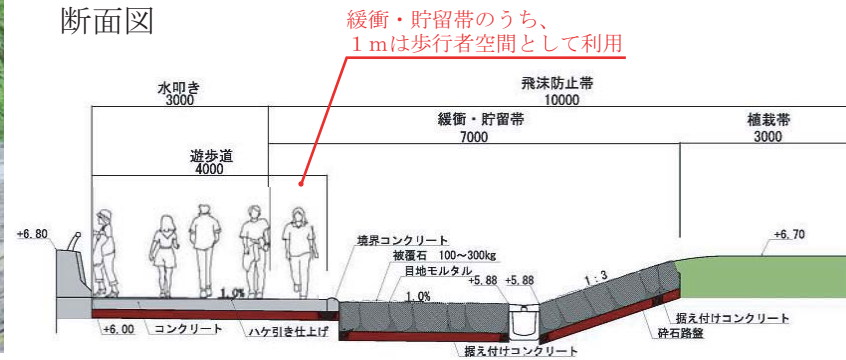
南北両端の展望部と標準部のパラペット高低差の処理方法について、護岸本体構造物の安定上、高さの制約を受けることが分かりましたので、パラペットは階段状として処理し、パラペットの高低差により壁面に出っ張りがでないように摺り付け区間を設けました。また、南北の展望部へのスロープ縦断勾配は8%を確保する案を事務局として提示しました。

護岸上の水叩きの幅員は機能上の3mとなりますが、ここは通路としての機能だけでなく、海や山を眺望する地点となることから、貯留帯の水叩き側1mについても歩行空間として利用できるように提案しました。更に水叩きと貯留帯の境界には、車椅子の脱輪防止のため、境界に縁石を設け、デザインとしてもアクセントとなるように配慮しています。

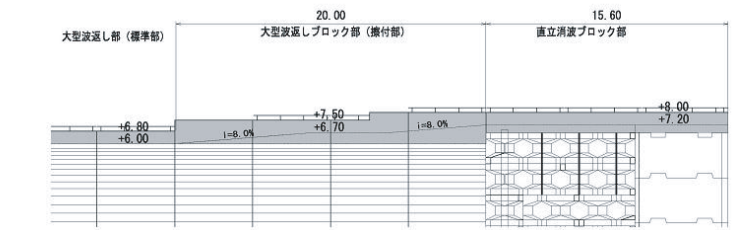


護岸各部のデザインCG

断面図



パラペット高低差の処理方法（階段状に改善）



北側展望部の縦断方向摺り付け案（海側より）



南側展望部の縦断方向摺り付け案（海側より）



パラペット高低差の処理方法当初案 (写真①)小舗石を用いた施工事例



変更案 (写真②)被覆石の施工事例

○飛沫防止帯の植栽

これまでの検討会と説明会の意見として、飛沫防止帯の植栽については、背後地からの眺望を考慮し、なるべく密にならないように高木を均等に配置せず、樹高・樹冠の異なる樹木を不規則に配置する案を提案しました。

樹種については飛沫防止帯の目的から、耐潮性があり、常緑樹であることや、捨石上に盛土された場所に植えられることから耐乾性があることを条件として9種類を選定しました。更に経済面・維持管理面を考慮した結果、事務局の提案としては、アラカシ、ホルトノキ、モチノキの3種類を提案しました。これに対し、別府湾内における環境適合性や、樹木単体の耐風力等について更に調査した上で、樹種選定を行っていくとの意見で一致しました。

また、背後緑地も含めた今後の維持管理については、行政だけでなく、地元と連携していく方向で、今後も議論していくこととなりました。

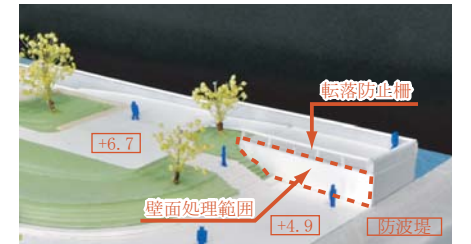


○南側端部のデザイン提案

南側端部の広場の壁面はコンクリート面が露出するため、壁面処理には別府市民に馴染みのある別府石を使用することが前回の検討会でも議論されており、その施工イメージを紹介しました。

また、転落防止柵はその素材、形状について海側パラペットの手摺りや、緑地内に設置する柵との連続性に配慮する必要があることを説明しました。

更に、+6.7mの平場は複数の動線が交わるため、芝生を一体として大きな規模の広場空間になるようにしました。



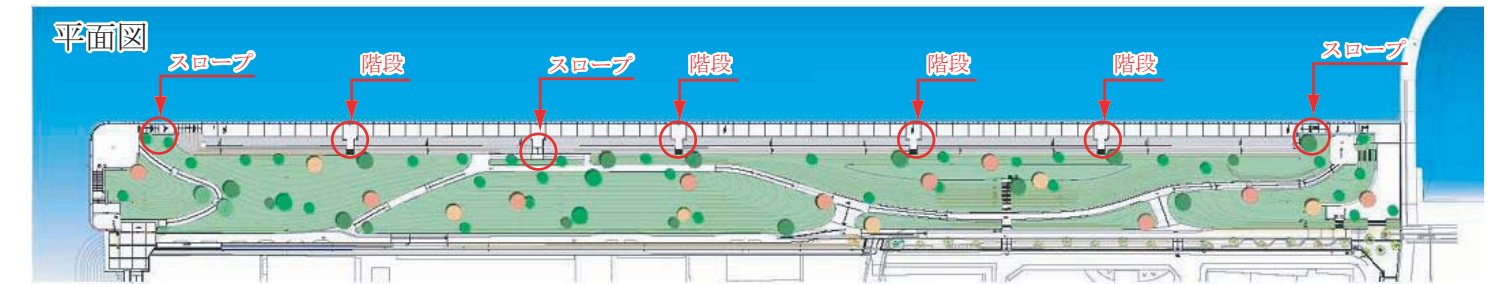
南側展望スペース模型



別府石による壁面処理の事例（べっぶアリーナ）

○緑地からの連絡通路

緑地から護岸へ繋がる通路は、全延長420mの中に南北端部に2箇所と、中央部には連絡通路(階段4箇所、スロープ1箇所)を配置しており、その平面配置と詳細形状について事務局案を提示しました。この後、齋藤研究室からの提案があり、これをベースに今後詳細を詰めていくこととなりました。



○安全対策施設

当地は多くの人が集まる場所であることから、水難事故が発生した場合に対応できる施設として、安全対策施設を検討しました。

前回の検討会では固定式梯子の設置要望がありましたので、護岸の構造上設置可能な北側端部にゴム製の梯子を設置することとし、それ以外の場所については60m間隔で救命浮環を設置することを提案しました。



救命浮環の事例

固定式梯子の事例

模型とイメージスケッチによる平面配置案・断面構造の説明

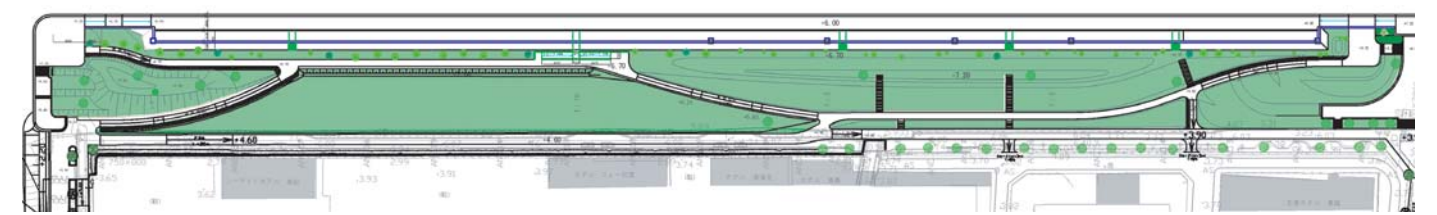
事務局からの説明に加え、イメージスケッチと模型を用いて、検討会の齋藤委員長と齋藤研究室の学生から、全体の配置計画と連絡通路、細部の処理案について提案していただきました。説明の概要は以下のとおりです。

○飛沫防止帯の配置と、緑地園路に対する対応

飛沫防止帯の配置は、背後地からの海への眺望と背後事業所へのプライバシーの保護の2通りの見解があり、眺望をどう考えるかによって植栽の位置を少しずつ調整する対応もあることが説明されました。

なお、第1回整備計画説明会において一部見直しの要望があった園路の配置については、齋藤研究室で検討した一例を説明して頂きました。

当初



変更案

